

# 授業後のICTを活用した新しい授業研究のスタイルの確立

学校名 龍郷町立龍南中学校

所在地 〒894-0104  
鹿児島県大島郡龍郷町浦528

ホームページ  
アドレス [http://www.town.tatsugo.lg.jp/school\\_portal/ryuunan/](http://www.town.tatsugo.lg.jp/school_portal/ryuunan/)

## 1. 研究の背景

### (1) 研究公開での取り組みから

本校は、奄美大島地区研究協力校として、平成23年度より、研究の柱を「言語活動の充実」と設定し、学力向上に向け研究・実践を重ね、平成24年10月に研究公開を実施した。研究公開では、研究の成果を存分に示すことができたが、研究授業の目的を教師の授業力向上として考えると、研究公開での授業研究では、授業に関する受け答えが中心となり授業方法改善まで結びつかなかったため、深まりのある授業研究の進め方が課題と考えた。研究公開当日の授業研究は、下記の流れで行った。

- ① 授業者による授業の反省
- ② 授業に関する質疑応答
- ③ 指導助言・講話

課題点として、以下の項目があげられた。

- ① 参加者全員が発言する機会がない。
- ② 授業に関する意見が質問者の意見で終わってしまう。(関連した意見が出にくい)
- ③ 経験や年齢により、意見が出にくい傾向がある。



教科が同じとはいえ面識がない教諭どうしでは、なかなか意見が出にくい傾向がある。また、授業研究後に質問や良い助言を受けたが、それを全体で共有できなかったことが残念であった。

### (2) 校内研修（一人一研究授業）での取り組みから

本校では、一人一研究授業を実施している。各教諭が授業力向上のため授業改善に努めているが、以下の課題が毎年あげられている。

- ① 教科が異なるので意見を出しにくい。
- ② 研究授業に全員参加できない。
- ③ 経験や年齢により意見を出しにくい。

中学校の場合、教科担任制なので、教科に関する専門的な質問はしにくい現状がある。また授業時数を考えると、毎回全員参加の研究授業を実施することは難しいため、授業研究の進め方について改善を行いたいと考えた。

## 2. 研究の目的

研究の背景で明確になった課題を改善するために、授業研究の参加者が授業の課題を共有し、改善策について全参加者で指導の在り方を、ICTを活用した参加型による授業研究スタイルを確立することを目的とする。

授業研究の方法として、具体的には、

- ① 授業の撮影及び撮影した映像による問題点の明確化
- ② 授業中の生徒の活動の記録及びそれを利用した問題点の明確化
- ③ ①、②を利用した問題点の共有化

という活動を授業研究で設定する。①については、デジタルビデオカメラ数台を活用して、授業全体及びグループ活動中の生徒の様子を記録する。授業研究の際に、撮影した映像をもとに問題点等をスクリーンや電子黒板に示すのが目的である。②については、撮影した映像をもとに、生徒個人に焦点を当て、個の活動の様子を明確化するのが目的である。①、②をもとに、授業の改善点や生徒の思考の流れ等に焦点化し、焦点化した問題点や課題を共有し、参加した全教諭で改善策を考える充実した授業研究のスタイルを構築することが目的である。このことにより、公開授業に参加した教諭が、授業方法・指導案・改善点等を自校に持ち帰り、各学校で活用し学力の向上につなげるのも目的である。

## 3. 研究の方法

研究の方向性を明確にするために、下記の仮説を設定した。

ICTを活用したグループ討議を中心とする授業研究を行えば、授業方法の改善策を全職員が共有することができ、授業が改善につながるのではないかと。

授業研究を工夫することによる予想される成果として、以下のことがあげられる。

- ① 授業研究に参加した全教諭が何らかの考えや意見を発言するようになる。
- ② 授業の問題点や課題を全教諭で共有化し改善方法を考えるようになる。
- ③ 授業研究での発言を求められるので、教諭は授業研究で発言する意識が高まる。
- ④ 自分の専門外の教科にかかわらず、様々な意見が出るようになる。
- ⑤ 研究授業を参観する際、授業に対して問題点や課題点を意識するようになる。
- ⑥ 授業を実施した教諭は、授業研究での改善点をもとに、授業を改善し工夫することができる。（たくさんの意見をもとに工夫し改善することができる）
- ⑦ 授業を改善することにより、生徒の理解が高まるような授業の実現が期待できる。

上記のとおり、授業研究の工夫を行うことにより、研究授業を参観する教師の視点の明確化と問題点や課題の共有化と授業研究で発言する意識の高まりを目指す。授業者については、授業研究により課題の把握とそれに対する様々な意見を基にした授業改善の意識の高まりを目指す。つまり、①～⑦項目を毎回満たすような研究授業と授業研究が行われるようにするのが目的である。

具体的な実践方法として、1年間に研究授業を10回実施する。（1学期3回、2学期4回、3学期3回）1学期の第1回目の研究授業までに授業研究スタイル開発及び授業研究の方法を構築する。ICT活用班は、機器の操作方法を確認し操作に慣れるようにする。授業研究は具体的には、ワークショップ形式で全教諭が参加し意見を発表する活動を取り入れる。流れとしては

- ① 3人程度のグループを作り、グループ毎に授業の問題点や課題をあげる。
- ② 問題点や課題の中から、1つ選び、その場面の映像を確認し問題点の共有化を図る。

- ③ その問題点の改善点をグループ毎に考え記録する。
- ④ グループごとに問題点と改善方法を発表する。

といった授業研究を実施する。1, 2学期に合わせて7回の研究授業を行う。研究授業では、生徒の活動が主となる授業（言語活動を位置付けた授業）をICTの活用と合わせて展開し、授業改善に向けて、授業研究での1グループの適切な人数、指導上の課題点、授業の流し方など授業研究スタイルの確立を目指す。そうすることで、生徒の思考の流れを明確に把握でき、ICTの操作に教師が慣れ、授業でのICT活用に繋がると考える。また、授業だけではなく、授業研究においてもICTを活用することで、学力向上に繋がること（授業の改善策をもとに教師が授業を改善工夫することで、生徒の理解が高まると考える）まで検証し、授業研究スタイルの確立を目指す。

#### 4. 研究の内容・経過

##### (1) 研究授業の実施

一人一研究授業を通して授業研究の工夫を行う。日程は以下のとおりである。研究授業の前に必ず授業研究を実施する。

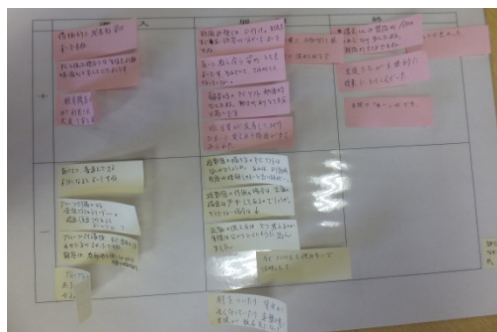
No.	教科	実施日	指導案検討会	備考
1	理科	7月10日	7月3日	
2	家庭	9月26日	9月19日	
3	理科	10月22日	地区教科部会で実施	公開授業
4	数学	10月23日	10月16日	少人数指導
5	英語	11月5日	町教科部会で実施	
6	保体	11月20日	11月13日	
7	美術	12月11日	12月6日	
8	国語	1月27日	1月21日	

##### (2) 授業研究の工夫

授業研究の工夫内容として以下の項目を実施する。

- ① 指導案検討会での授業者の説明と授業参観の視点を明確にしたシートを基に授業を参観する。
- ② 付箋紙を2種類配布し、良い点と改善点・質問点を、授業を参観しながら記入する。
- ③ 授業研究は3～4人のグループ討議型で、付箋紙を基にしたKJ法を用いて行う。
- ④ グループ討議中に撮影した映像により問題点の明確化を行う。
- ⑤ グループ毎に課題点と改善方法を発表する。

※ ④については、デジタルビデオカメラ数台を活用して、授業全体及びグループ活動中の生徒の様子を記録する。授業研究の際に撮影した映像をもとに問題点等をスクリーンに示し、グループ討議であがった課題を映像で確認するのが目的である。また、撮影した映像をもとに、



生徒の活動の様子を明確化するのが目的である。映像で授業を確認することにより、授業の改善点や生徒の思考の流れ等に焦点化しやすくなり、焦点化した問題点や課題を共有し、参加した全教諭で改善策を考える充実した授業研究が実施できると考える。

### (3) 公開授業での実施

前述した公開授業（平成25年10月22日）で、他の中学校から参加者を募り、本研究の実践内容を初めて行う教師にとって、研究の目的通りの成果をあげることができるか検証した。その際、授業開始前に授業研究の方法について説明した。説明については

- ① 研究授業をグループ討議（KJ法）で実施する。
- ② グループ討議が充実するために、付箋紙を配布し、授業を参観しながら意見を記入する。
- ③ ICT機器の取り扱い方を説明する。（本授業で使用したデジタルビデオカメラは、プロジェクター機能付きなので、撮影したものをすぐにスクリーンに映し出せる利点がある。グループ討議中にスクリーンに映し出す操作で時間をとらないようにあらかじめ説明しておく必要がある）



## 5. 研究の成果

平成24年度の地区公開の授業研究と比較すると、確実に授業に対する意見が増えた。また、グループ毎に焦点化した課題が異なるので、それぞれの課題について有効な意見がでてきた。さらに、グループで意見交換した内容を、全体で発表することにより、課題と改善点を共有することができた。

授業研究に参加した教師の意見として、以下のようなことがあげられた。

### (1) 公開授業に参加した教師の意見

- ・ KJ法によるグループ討議は、課題に対して様々な改善点を聞くことができ、充実した授業研究だった。
- ・ グループ討議で、TCと映像を比較しながら課題点を確認することができるのがよい。
- ・ 映像をすぐにスクリーンに映し出せるので、いろんな活用方法が考えられる。

参加した教諭からは、授業研究の方法に対し、肯定的な意見が多く出された。授業前に、授業研究の方法や機器の使い方を説明すると、初めて実施する場合でも本校で実践した授業研究を行うことができると思われる。

### (2) 本校の授業研究での意見

- ・ 他教科でも、課題が明確になるので意見を出しやすい。
- ・ 授業を撮影してあるので、授業参観できなくても、後で授業を見ることができる。
- ・ 映像を同時に映し出すことにより、教師の指示に対して生徒がどのような反応や活動を行うか確認することができる。



以前と比較すると授業研究での意見の量が格段に増えており、授業研究が充実し、授業改善につなげることが

できるようになってきた。それは、授業研究後にKJ法で使用したシートを全教師がコピーしたことから判断できる。確実に各教師が授業改善への意識が高まってきたと考える。また、上記にある通り、実践を通して、映像を同時に映し出して課題点をあげるという新たな試みが実施された。

## 6. 今後の課題・展望

課題として、以下のような意見があげられた。

- ・授業の撮影の仕方（どの生徒、どのグループを記録するか）
- ・授業研究後の各教師の授業改善への取り組み方とその検証

研究を通して、新しい授業研究のスタイルが構築されたと思われる。今後は、授業前に撮影する生徒や機器を設置する場所を検討し、より有用的に機器を使用し、課題を明確しやすい撮影方法を研究する必要がある。また、教師が研究授業、または、個人で自主的に授業を撮影して、さらに授業改善に努める必要がある。

## 7. おわりに

今回の研究を通して、研究の目的や仮説は概ね達成できたと思われる。しかし、本来の目的は、各教師が授業改善につなげることである。今回の研究は、間接的ではあるが生徒の学力向上につなげるための授業改善であり、授業改善の方法として、授業研究での課題の明確化と共有化及び改善策の思考が目的である。現段階では、授業改善に関しては、各教師に委ねているので、今後は、授業改善を校内研修などを利用してシステム化すれば、授業改善が確実に行われると思われる。

最後に、今回の研究にとどまらず、様々な視点で課題を明確にし、研究を実践していきたいと考える。